信長探訪倶楽部　５月行事　長篠・設楽原の戦い

信玄の急死により、信長は朝倉氏、浅井氏を攻め滅ぼし、将軍義昭を京都から追放、天下人を目指して台頭した。武田氏の撤兵により、三河の家康も武田領国へ反抗を開始、長篠城を奪還した。ここに配属されたのが武田氏から寝返った奥平貞昌であった。武田氏の後継者となった勝頼がこの長篠城を取り戻すべく、攻め寄せたのが「長篠・設楽原の戦い」の背景である。

ここに長篠城奥平勢５百に対し、勝頼軍１万５千の城攻めの戦い、そして信長軍３万の到着により、家康軍８千併せて３万８千の連合軍が設楽原にて勝頼軍１万５千と対峙することになる。ここで信長は前面に馬防柵を設け、武田騎馬軍の足を止め、鉄砲３千丁による弾幕を張り、武田軍の名だたる武将を討ち取り、勝利したのであった。

楠交流会館前を出発して3時間近く、ようやく長篠城跡に到着。後ろの凹みは城を守る堀跡である。

長篠城本丸跡から目の前に新東名が見える。ときの城主・奥平貞昌もまさかこうなるとは？当時は目の前の武田が築いた鳶ケ巣山砦から攻略されていたのだ。
反対側には長篠城址史跡保存館が見える。

勝頼軍に攻められ、落城目前の長篠城から抜け出し、家康、信長に救援を求めた鳥居強右衛門が磔になった方角を見る3人

長篠城から4kmほど離れた設楽原戦場跡に行く前に訪れた設楽原歴史資料館。設楽原の戦いのほか、火縄銃の陳列が充実、また新たに幕末の優れた官吏・岩瀬忠震を紹介している

続いて近くの設楽原戦場跡の馬防柵を見学。ここに家康、信長軍3万8千対勝頼軍1万5千が対峙した。勝頼軍は長篠城包囲に3千を割いていたので、実質3対1の厳しい戦いとなった。

武田軍、織田･徳川連合軍の間を流れる連吾川に沿って作られた馬防柵のモデル。連吾川も当時はもっと広かったであろうと思われる。

長篠城を見下ろす位置にある鳶ケ巣山砦への登山。さすがに疲れるのだ。

信長が勝頼に決戦を強いるための作戦が、長篠城包囲の鳶ケ巣山砦を急襲し、勝頼の退路を断つことであった。そのため砦の守兵１千に対し、４千の兵を差し向けたのだ。